

地球を 読む

欧州、少なくとも英国を除いた大陸ヨーロッパが、一息ついている。

昨年末からこの春にかけて、オランダの総選挙、仏大統領選・総選挙と政治イベントが続く中で、反移民、反グローバリズムを主張する政党や候補者の躍進が懸念されていた。

だが、いずれの選挙でも、右派と呼ばれるグループは敗退した。この動きは、極

めて単純な構図で捉えれば、大西洋の向こうから及んできたトランプ効果とそ

の「反」効果とみられる。国民の鬱積した不満を汲み上げて昨年11月に当選したトランプ氏の「快拳」を見て、類似の主張をしてい

た右派政党が「我々にも好機到来！」とボルテージを上げ、年明けには勢いがピークに達した。

さらに、「難民に甘すぎるといふ批判を受け、気の早い政治評論家からは「2016年末までには退陣か」とまで言われていたメルケル独首相の支持率は回復した。所属するキリスト教民主同盟は、今年に入

り、三つの州議会選挙で勝利を収めた。これらをひっくるめて一般的には、「欧州の復調」と言われるようになってきている。

ただ、ことはそう簡単ではない。欧州の歴史を回顧してみると、大陸に所在し

危機感 かりそめの 結末

が姿勢を転換したのだから。今のところ、右派政権の発足はどこにも見られていない。一時、政治的不安定を主たる理由として大幅に価値を下げていたユーロも昨年の水準にまで回復している。

初めて醸成された。そして、その外的脅威が、自らの内的要因で崩壊した時には、欧州側の一体感もまた消滅するということを繰り返してきた。

その極端な表れが、もともと心情的に「ヨーロッパ意識」の乏しかった英国のEUからの離脱(Brexit)宣言だった。

しかし、ソ連が解体し、一時は「G1」と言われた米国が徐々に内向きになる中で、欧州への圧力が低下した結果、内部の統合への意気込みも徐々に希薄化していった。



渡辺 博史

国際通貨研究所
理事長

欧州の「復調」



1面の続き

渡辺博史氏 1949年生
まれ。財務省国際局長、財務
官、国際協力銀行総裁などを
経て2016年10月から現
職。経済に関する著書多数。

ところが、東のロシアが
クリミア、ウクライナ問題
などでうごめく、米国で
「とんでもない」キャラク
ターが暴走を始めたという
現実にとらされた結果、欧
州は外的脅威への対抗意識
としての「まとまり感」が
出てきたと言える。

遠くに位置する中国が欧
州まで視野に入れた「西進
構想」を提唱したことに対
する警戒感も、欧州での動
きを増幅している。

これを一過性のものにし
ないで、本格的かつ持続的
な統合へ向けていくには、
核となる国の決意と互譲、

なっている。

このような格差が生じて
いる中で二つの国の実質的
協働は果たして可能なか
どうか？

7月初めにドイツで開か
れたシンポジウムに参加し
た際、興味深い光景に遭遇
した。

ユーロの将来に関連し、
独仏両国間の差異について
論じた。

独仏の協働発展を左右

この二つの国の新たなコミ
ットメント（確約）が必要
になる。

第2次世界大戦後、科学
・技術面ではそれなりに拮
抗してきた両国だが、産業
面においては、ドイツがは
るかに先を行き、フランス
は後塵を拝している。政治
面でも、フランスはこの10
年の間に不安定さが顕著に

なくとも乗り越えようと努
力してきたのではないか」

とコメントしようとし、手
を挙げた。その直前に米国
人の学者が発言を求め、「こ
の2国間の差異に関する分
析は、極めて明快でよく分
かった。それと同時に、ユ
ーロの発展的未來はないと
いうことを確信した」と結
論づけた。

シンポジウムの言え
ば、まさに米学者のコメン
トが正しい理解である。だ
が、現実世界で動き始めて
約20年経つものを止めると
いうことは、膨大なエネル
ギーを消費し、甚大な損失
をもたらす。

その豊かさを今後あるべ
き社会や経済にいかにして
結び付けていくかという道
筋を示すことは、過去数世
紀にわたって世界中の富を
費消してきた欧州のいわば
責務である。

私は「そんな話は前世紀
の間に何度も繰り返し議論
され、克服されてきた。少
度「オバマケア」をトラン

プ大統領が改廃しようとし
ても、その影響の大きさに
米国では、政府と議会が立
ちすくんでいる。こうした
状況下で、「ユーロもこれ
で終わり」と簡単に言うわ
けにはいかない。

欧州は、今でも世界で最
も豊かな地域である。欧州
ですら自らの将来を描けな
いのであれば、もっと貧し
い地域を含む世界全体は、
将来に自信を持つことがで
きずに、より混乱の度合い
を増すだろう。

その麗しい語源を持つ名
称に相応しい優れた対応を
強く期待したい。外部の動
きにより、望まずして土俵
際に追い込まれているとし
ても、それを好機としてこ
こから逆転する力はまだ持
ち続けているものと、祈り
ながら信じたい。

ヨーロッパという名称
は、ギリシャ神話の主神ゼ
ウスが娶ったフェニキアの
美貌の王女エウロペを連れ
回した地域にちなむとされ
る。別の言語では「広く熟
視する」といった意味もあ
るといふ。

世界の過半を占める新興
国や開発途上国が将来像を
模索する手がかりを示すた
めにも、欧州の民間部門が

持つ潤沢な資産や富を効率
よく集約し、公的部門にも
生かせるよう、各国の財政
や国境を超えた財政調整の
あり方について、議論を深
める時期に来ているとも言
える。

英文はあすのジャパン・ニ
ューズに掲載する予定です